



INFORMATION MAGAZINE THE JOURNAL

ザ+ジャーナル!!

Vol.7
No.4

National Hospital Organization Okayama Medical Center

やさしさ便り～岡山医療センターの今

CONTENTS

- 2 特集 外科紹介
- 4 センター NEWS
ミャンマーへの国際医療協力隊
- 6 院内レクリエーション活動紹介
- 8 初期研修医通信／岡山小児救急医療研修会
- 9 こころが喜ぶログ／医療安全レポート
- 10 健康レシピ／臨床研究推進室便り
- 11 看護助産学校通信／リソースナース室通信
- 12 TOPICS!／地域医療連携室
編集後記

地域災害拠点病院
地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
総合周産期母子医療センター

岡山医療センターの理念

人にやさしい病院

—Human Friendly Hospital—

- 1 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3 地域の人にやさしい病院を目指します



携帯サイトを
開設しました!

外科紹介

当院の外科は
消化器、
乳腺・甲状腺、
腎移植
があるよ!



病院には多くの診療科がある。岡山医療センターでも26の診療科でそれぞれ専門的な医療を提供している。あまり耳になじみのない診療科もある中で、今回ご紹介する“外科”は内科や小児科と並んで一番多く見聞きする診療科ではないでしょうか。では、その外科には一体どういふときにかかって、どんな治療をするのだろうか?手術?そんな疑問にお答えする、岡山医療センターの外科についての今回はお話です。(編集部)

外科(消化器、乳腺・甲状腺、腎移植)は12人のスタッフと3人のレジデントからなり、毎年150件の緊急手術を含む1,100件の手術を担当しています。
とある若手外科医の1日をご紹介します。

8:15 a.m.

外科の1日は毎朝のミーティングで始まります。消化器外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、腎移植外科のメンバーが集まり、申し送りやその日の手術の段取りを確認します。色々な分野の先生からアドバイスを受け、「さすが先輩!」と実感することもあります。15分程度の短い集まりですが、時として各人の気分の良し悪しまで推し量る大切な機会です。



8時15分 毎朝、顔を合わせます

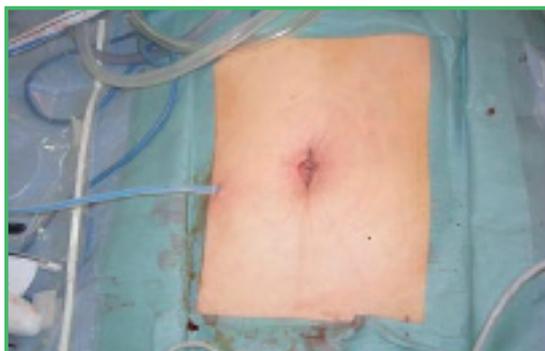
8:40 a.m.

手術へ。多くはスタッフ2人にレジデントか研修医が加わった3、4人で行います。レジデントは手術ごとに各分野のスタッフと組んで患者さまを受け持つので、様々な疾患を同時に受け持つことになり最初は大変です。病棟では逐一先輩に聞くことばかりですし、手術では手も足も出せません。しかし看護師さんもお気づきの通り彼らの進化は頼もしい限りです。皆、みるみる知識と技術をつけ病棟を任せられ、手術の重要な部分に加わるようになります。自分の成長ぶりを実感しやすいのは外科の喜びの一つです。

胸腔鏡や腹腔鏡といった内視鏡による低侵襲の(小さな傷でからだにやさしい)手術は増加の一途を辿り、今では全身麻酔手術700件の約4分の1を占めています。従来は胆嚢炎などの良性疾患が中心でしたが最近では進行がんにも用いられる機会が増えています。全身麻酔手術の3分の2はがんの手術ですので、近い将来、ほとんどの手術は内視鏡手術に変わるかもしれません。



腹腔鏡による胆のう摘出手術



4cmの傷1箇所です。



5:00 p.m.

内視鏡の技術を習得するためのシミュレーターが西棟のスキルアップラボにあります。アメリカのレジデントは実技と筆記の試験に合格しなければ内視鏡手術を行えません。日本にはこうした制度はありませんが、この資格取得を目標にトレーニングをしています。



ハワイ大学でアメリカ内視鏡外科学会の試験を受けます



腹腔鏡手術シミュレーター 実技試験もあります

6:00 p.m.

手術症例検討会は消化器内科と放射線科の先生方と一緒にを行います。この会議に至るまでの経過を顧み、術後の補助治療を検討する時、手術は治療のほんの一部に過ぎないことを実感します。特にがんの場合、手術は数時間で終わりますが、それはその後の5年間に及ぶ戦いのはじまりに過ぎません。一期一会の手術を最高のクオリティで成し遂げることに皆、こだわっています。



手術症例検討会 各科が集まり作戦を立てます。

9:00 p.m.

術後の患者さんが落ち着いており、ほっ。やっと勉強出来ます!?



外科(消化器、乳腺・甲状腺、腎移植、呼吸器、心臓血管)スタッフ一同

みんなで協力しているんだね



田中 信一郎 なかしんいちろう	診療部長	腎移植	秋山 一郎 あきやま いちろう	医師	一般, 消化器, 乳腺・甲状腺
内藤 稔 ないとう みのる	外科医長	一般, 消化器	柿下 大 かきした ともかず	医師	一般, 消化器
白井 由行 うすい よしゆき	乳腺・甲状腺外科医長	乳腺・甲状腺	徳毛 誠樹 とくも まさき	医師	一般, 消化器
藤原 拓造 ふじわら たくぞう	腎移植外科医長	腎移植	難波 圭 なんば けい	レジデント	
太田 徹哉 おおた てつや	消化器外科医長	一般, 消化器	長岡 知里 ながおか ちさと	専修医	
國末 浩範 くにすえ ひろのり	医師	一般, 消化器	岡田 晃一郎 おかた こういちろう	専修医	



ミャンマーへの国際医療協力隊 —チーム青山201211—第3回遠征記

青山先生とチーム青山

2012年11月われわれはまた、ミャンマーの北部第二の町マンダレー近郊ザガイン地区のワッチェ病院にいました。チーム青山3回目のミッションです。今回は総勢11名。青山興司名誉院長先生（3回目）、香川小児病院 小児外科医 中原康雄先生（3）と研修医 上野悠先生（初）、当院 小児外科医 片山



ザガインのワッチェ病院外観

修一先生（初）、小児科医 藤原香緒里先生（2）、同 中村直子先生（初）、6B小児病棟看護師 西川葵さん（初）、手術室看護師 松村加奈子さん（3）、山口医療センター 小児外科医 金川勉先生（初）、島根大学医学部 小児外科医 溝田陽子先生（初）、そして筆者の当院 外科医 臼井由行（3、ミャンマーは2回目）の11名です。今回は35例の手術を行いました。

青山先生は当院を退職された後も、手術を後進に伝授すべく、週一日を当院手術室にて勤務されておられます。生涯現役。わたくしも見習いたいものです。

ジャパン・ハートの活動拠点ワッチェ病院と現地スタッフ

ミャンマーはまだ貧しい国で、医療のインフラが整っていません。もと当院 小児外科医だった吉岡先生は2004年頃からミャンマーでボランティア医療活動をされておられました。そこがワッチェ病院であり、われわれ



青山先生の手術風景

の病院へもミャンマーから今までに3人の患児が手術に訪れました。3年前にこちらから手術に出かけるという活動も始まりました。吉岡先生とそのチームだけでは、人手が足りないのです。吉岡先生があらかじめわれわれのチームのスケジュールに合わせて、手術適応のある患者（ほとんどは小児）を予約してくれています。その患者リストを

見て、短期間（今回は月曜日午後から金曜日午前中）に手術を集中的に行うわけです。

ワッチェ病院はお寺に付属している病院です。ジャパン・ハートはその一部を料金を払って借用して、無償で診療を行っています。ジャパン・ハートは日本での寄付金で成り立っています。われわれも自分の手配でミャンマーに出向き、ボランティアで医療を提供します。現地には日本人スタッフが約10名と、ミャンマー人スタッフが6名ほどいます。

彼らを取り仕切っているのは“天童さん(?)”と呼ばれている小柄ですが、姿勢の正しい、やさしい、日本語のうまい40代の男性でした。Thien Zaw

(ティン ゾー) というのが正式だそうですが、みんなテンドーさんと親しく呼んでいました。テンドーさんは事務長みたいな仕事をこなしているそうです。吉岡先生の片腕として働いています。ミャンマー人スタッフには、手術室ナースのニーラー・ウィンさん、手術室スクラブナースとしての腕はすばらしく、そのうえ美人です。日本にニーちゃんと一緒に来た人懐っこいジンマンさん。看護学生のケンサートウンさん（ジンマンの妹）、チョーイーウィンさん、ドダーさん。



青山先生とテンドーさん

日本人スタッフはほとんどが看護師ですが、河野さんが7年のベテランで、あとは数か月の短期ボランティアで構成されていました。それゆえわれわれのような専門集団が訪れた時には、ミャンマー方式と日本などの先進国の常識とのギャップを埋めるのに苦労している様子でした。



ミャンマー・ヤンゴンにある孤児院ドリームトレイン

ワッチェ病院での診療と生活

手術室では時々停電があります。その場合は懐中電灯で照らしながら手術を続けます。熱帯であり、ハエや蚊が手術室に入ってくることも頻繁です。その場合はバドミントンのラケットのような電気ショックでハエを殺す道具が置いてあります。そのような厳しい環境で、35例もの手術を丸4日で行いました。火曜日、水曜日は午前1時頃まで手術が行われました。そのうち鎖肛や尿道下裂(どちらも先天性の病気で手術が必要)が10例ずつくらいあり日本よりも頻度が高いようでした。

ワッチェ病院のスタッフ約20名は僧院の建物群の中に2棟を借りて生活しています。病院は川沿いにありますが、僧院はその裏山にあり、坂を上がっていくと、約20棟の建物群が立っています。パゴダ(仏塔)もあります。僧侶が分かれて暮らしているようです。

そこでは、毎朝6時起床で、30分かけて住居のまわりを掃除します。そして、30分の瞑想。お寺に座り、30分間黙って瞑想します。仏壇がありますが、電飾で緑色にキラキラと輝く(ヤンゴンの寺院と同じよう)仏の絵が前にあります。3回礼をして、瞑想するわけです。瞑想中は何も考えないようにするのがよいようですが、なかなか凡人にはできないようです。つついいろいろなことが想いめぐります(わたくしの場合は)。7時過ぎに、病院の前の露店の食事処で、麺類を食べます。少しピリ辛のつゆ麺とつゆなし麺とがあります。食事代はジャパン・ハート持ちです。7:30から病院でミーティングがあります。申し送りです。ミーティング ピービー(「終わり」の意味)と言って解散です。そして外来、手術が始まります。昼食は坂を上がって行って住居で食べます。手術が立て込んでいる場合は、円筒形のステンレスの3段重ねの弁当箱が病院に運ばれます。夕方は、病院で食べるが多かったです。夕方にもミーティングがあります。その時も、ミーティング ピービーと言って解散です。

仕事が終わると、坂を上がり住居に戻ります。住居は2階建てです。1階は男性の寝室兼食堂、2階は女性の寝室です。靴を脱いで上がるようになっています。トイレは一階に一つ。ミャンマー式です。すなわち、水でお尻を洗う方式です。東南アジアでは大体そんな感じです。トイレトーパーは使わないのです。し

かし日本人の住居なのでトイレトーパーを使用後入れるごみ入れがあります。風呂(水浴び場)は1階、2階にひとつずつあります。どちらも水しかありません。1×1.2×1mの水溜(風呂桶ではないので入らない)があり、洗面器のようなもので水をかぶるだけです。女性のほうは水の出るシャワーがあるそうです。寝室はせんべい布団があり、それを敷いて寝ます。夜は交互にシャワーを使って、寝るだけです。蚊取り線香を焚いて寝ます。テレビもラジオがありません。ミャンマーはまだ通信のインフラが整っていないのです。主要都市のヤンゴンでも日本の携帯電話は繋がりません。ホテルからの有線電話で日本と通話します。

ニーニーちゃんとの再会とミャンマー、日本そして岡山

今回、ミャンマーに着いたその日は、すぐその足で、ジャパン・ハートが作った孤児院ドリームトレインに行きました。今年夏に来岡し、手術をしたニーニーちゃんの経過を観察するためです。ドリームトレインには現在153名の孤児が暮らしています。そこにわれわれはクリスマスプレゼントを贈りました。また、ニーニーちゃんの元気に回復している姿を見ることができました。

その夕方は、吉岡先生といっしょに北京ダックの店に行きました。安くて美味しい北京ダックをたらふく食べて、



ドリームトレインでニーニーちゃんと再会

明日からの過酷な手術の日々に備えました。翌日の月曜日は、早朝の飛行機で北部マンダレーまで飛び、ザガインのワッチェ病院に行き、午後には手術を始めていました。金曜日までは、手術の毎日でした。木曜日の夜は、昨年と同様ミャンマースタッフとわれわれとの夕食会をザガインのレストランで行いました。最後は上を向いて歩こうの合唱で締めくくりました。

金曜日午後、マンダレーからヤンゴンに飛び、ヤンゴンで一泊しました。ヤンゴンではやっとお湯のシャワーが使える、ゆっくりと夕食を食べることができ、観光、マーケットでの買い物もできました。また、ヤンゴンの日本人墓地にも参拝し、過去の戦争で亡くなった19万人の日本兵の慰霊碑の前で焼香しました。岡山県出身兵士の慰霊碑もありました。岡山県から出征した兵士のうち、5000人も

の人が戦死したそうです。岡山の護国神社にもビルマ戦没者の慰霊碑があります。岡山ともミャンマーが繋がっていると思いました。ミャンマーの人はイギリスの植民地からビルマを解放した日本人を歓迎し援助したと聞いています。



ドリームトレインの孤児たちと

最終日には青山先生が初めて体調を崩されました。帰りの飛行機内でも、次々と体調を崩す人が続出し、今回のミッションの過酷さを物語っていました。けれども、今回のミッションも患者全員の手術を無事終えたことで、みんな達成感を感じていました。このミッションでは、途上国の現状を知り、日本の国の素晴らしさを改めて感じたと思います。このような企画をしてくださった青山先生、われわれを温かく歓迎してくださったジャパン・ハートやミャンマーのスタッフ皆様に感謝したいと思います。また、われわれの不在中留守をまもって仕事をしていた岡山医療センタースタッフの方々にも深謝いたします。

院内レクリエーション活動紹介

レクリエーションは仕事などにより緊張し疲労した肉体と精神を回復させ、新たなエネルギーを生み出すとともに交流を行う場としても大切です。

当院では職員で結成した各種クラブ・サークルを通じて、ダンスやスポーツという形で多職種との情報交換や

対外試合を通しての外部との交流を行っています。こういったレクリエーションを通じて多職種が協力しあうことはチーム医療の推進に繋がり、よりよい医療に反映されていくと思います。皆さん、一緒にいかがですか？

フラダンス

フラは一見優雅ですが、絶えず身体を動かす実はとても運動量の多い踊りです。心がリラックスでき、シェイプアップ効果も期待できます。現在、約10名で活動しています。メンバー全員フラ初心者です。リハビリ室で月に2~3回のペースで練習しています。活動内容は、病院行事の参加、他にも老健施設の夏祭りや学会の懇親会にも参加しました。今年も様々な行事に参加していきたいと思っています。一緒に踊りませんか？よかったら来て下さいーい☆☆



バスケットボール



現在、約20名で活動しています。バスケット経験者が多く内容の濃い練習が行えています。7病院と交流試合も頻回に行っています。どれも1点を争う白熱した試合です。また年に2回、岡田CUPという名の職員と看護学生の交流試合が行われています。またチームTシャツやユニホームも作製し、年々チーム力は増えています。

バスケット経験者の方、興味ある方、是非一緒にしましょう☆



バレーボール



現在、約30名で活動しています。月に1回、練習または他病院との交流試合を行っています。楽しいバレーを目指しているため、初心者のかたも気軽に入れる雰囲気です。初心者の方には経験者の方が優しく指導してくれるため、アタックが打てるようになったりと日々上達が見えます。今年の目標は他病院と交流試合を積極的に行っていくことです。バレー興味ある方は是非一緒にしましょう☆

ソフトボール

2012年夏にチーム発足しました。できたてほやほやのチームではありますが、ユニホームも作製し、10月にある27病院対抗の試合に向けて練習を積んできました。その結果、best8でありましたが、次は優勝目指し日々練習中です。野球・ソフトボール経験者の方大歓迎です。興味ある方一緒にしましょう☆



フットサル



私たちフットサルクラブ（チーム名募集中!）は、ほぼ毎週月曜日に看護学校体育館で活動しています。メンバーは医師・看護師・コメディカルのスタッフや看護学生さんと多岐にわたります。フットサル経験のある方、未経験の方でも興味のある方、職種・性別は問いません。未経験者・女性の方もたくさん活動しています。みんなで楽しくフットサルを始めましょう!

興味がある方はこちらまでご連絡ください!

☆フラダンス・バスケ・バレー・ソフトに興味ある方はリハビリ科安藤まで

☆フットサルに興味ある方はICU看護師井上またはME藤本まで
よろしくお祈いします☆

初期研修医通信 冬の巻 1年経ちます

■医師育成キャリア支援室
腎臓内科医長 太田 康介

当院研修医育成につきまして各方面の方々からご理解ご協力頂きありがとうございます。

今回は年度末にあたり、平成24年4月に採用された初期研修医13名のうち2名から1年を振り返っての感想をいただきました。

永井康貴先生

岡山医療センターに勤務して、はや1年が経過しようとしています。この1年を振り返ってみるとあっという間に過ぎ去ってしまったという印象です。仕事では初期研修医1年目、私生活でも初めて九州から岡山へ引っ越してきたため、仕事も言葉も風習も、何もかもが全く分からない戸惑いの春を送ったのは随分以前のことのように。温かいスタッフや同期、仕事のやりがい、感謝の言葉など多くの支えがあって仕事を続けられていることを日々実感しております。支えられっぱなしの1年であったことを強く感じておりますが、来年度は2年目として今年よりも少しでも貢献できるよう、努力していく所存です。今後とも宜しくお願い致します。



松浦郁子先生

初めまして、初期研修医1年目の松浦郁子です。研修が始まってもう1年になりますが本当にあっという間でした。この1年間で最も印象に残っている患者さんは医師になって1ヶ月の頃に初めて亡くなった方でした。何をしたら良いのか分からずもどかしく、最期にご家族にありがとうと言われて嬉しいような申し訳ないような気持ちになったのを今でもよく覚えています。忙しくなると仕事をただこなすだけになりがちですが、担当してきた患者さんのことを忘れずに1日1日過ごせたらと思います。1年間で多くの先生方と関ってききましたが、5年後10年後にこうありたいと思う先生方が多く、恵まれた環境だなと実感しました。研修期間も折り返し地点となりましたが、今後ともよろしく願いいたします。



初期研修はあと1年あります。引き続きご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

短信：1月26日岡山大学病院で開催された「研修医OSCE -Okayama cup 2013-」(診療技術を競う大会で、県内1年目研修医22名参加)にて、当院の津高慎平先生が「医療面接 (bad newsの伝え方)」の部門で最優秀表彰を獲得されました。昨年の大丸先生に続く快挙です。

岡山小児救急医療研修会 当院にて開催

■6B病棟看護師 松尾 智美

昨年12月20日～22日の3日間で、「第8回岡山小児救急医療研修会」が当院で開催されました。毎年、中四国の小児医療に携わる医師や看護師、養護教諭や救命救急士の方々に大勢参加して頂いていますが、今回の研修会は年末の多忙な時期にもかかわらず、前年よりも多い110名の方々に参加して頂きました。

研修会では当院の医師や認定看護師による様々な小児領域の講義や救急コース、成育コースと領域を分け、よ

り実践に活かしやすい内容での実習も行いました。研修生の方々には「小児領域の学びを深められた」「自施設で実践に生かしたい」「充実した研修だった」という多くの高評価を頂きました。研修はややハードスケジュールでしたが、他施設の方々と意見交換や交流を深める機会になり、主催側の私たちにとっても有意義な研修会となりました。



Column

こころが喜ぶログ

フリーアナウンサー
遠藤寛子



「継続は力になることを信じて」

2011年3月11日の東日本大震災から2年が経とうとしています。同年のザ・ジャーナルにも書かせていただいたのですが、私たち岡山に住むアナウンサー有志が『おはなしのWA♪』というボランティアグループを2011年に立ち上げ活動を始めました。幼稚園や保育園に出かけて行き子どもたちに絵本などの読み聞かせをして、そこでお預かりした支援金を「3.11支援プロジェクト@岡山」を通じて被災地におくり、復興支援活動に役立てていただこうというものです。約1年にわたり細々と続けてきたのですが、昨年に入り活動の数はめっきり減ってしまいました。こうした小さな活動は本当に必要なのか、震災から学ぶものがあるのではないか、形を変えてでも続けることができないか…メン

バーで話し合いを重ねました。そして、今年はず3月11日に大人を対象とした朗読会と勉強会を開くことになりました。定員20人程の小さな集まりです。防災という観点で震災から学ぶことは何かを一緒に考えたり、『稲むらの火』など古くから語りつがれている本の朗読などをしたりします。また当日いただく会費から、被災地で生産された商品を購入することを考えています。これはそれぞれの生業を復興させようと頑張っている方を少しでも応援しようというものです。実はこの原稿を書いている今はまだ準備段階で果たしてどんな会になるかわかりません。ただ、これからも私たちがなりに伝えていくという活動を地道に続けていきたいと考えています。継続は力になることを信じて。

PROFILE 平成5年、山陽放送株式会社入社。在局中は夕方ローカルワイドニュース「山陽TVイブニングニュース」や県政・市政などのテレビ番組、スポーツ番組のリポートなどを担当。また、ラジオではお昼のワイド番組をはじめ、数多くの番組を手がける。平成12年に同社を退社後、フリーとして活動中。現在は、山陽放送テレビ・ラジオで朝の定時ニュース担当。またイベントや式典、ウエディングなど、様々なシーンでの司会進行でも活動を続ける他、マナー研修の講師も務める。

医療安全 レポート

—セーフティマネージャー会議より—

当院では、職員の医療安全に対する意識向上、医療に係わる安全管理の為に基本的考え方や具体的な対策について学ぶ為に、年2回「医療安全に関する研修」を行っています。



今年度は「小児の転落」「救急外来でのチーム医療」をテーマにシミュレーションを行いました。弁護士の先生方からも、法律を交えた責任と言う視点でのご高説を頂く機会となりました。今回の医療安全レポートではシミュレーション参加者にインタビューを行い、実際の参加者がシミュレーションを通し、何を感じ学べたのかを御紹介致します。

Q1 日頃の業務を振り返り、「ハット」するような気付きはありましたか？

A (看護師) 思い込みが一番怖いと感じた。色々な可能性を考え、児の安全を守ることが大切だと再確認しました。
(医師) コメンテーターの患者さん側から見た問題提起が素晴らしく、もっと理想を目指した医療を提供する事が出来るのではないかと考えた。

Q2 弁護士さんのコメントを聞いて、今後どのような事に注意して行動しようと思いますか？

A (医師) 「法的や賠償責任はなくても道義的な責任はある」という意見は当たり前なのですが、改めて言われると新鮮でした。普段からの細かい気配りや安全対策によって医療者・患者さんがお互い不幸にならずにすむ事が多くあるのではないかと思います。



今回のシミュレーションから得た学びを活かし、今後も医療安全とは何かを病院全体で考え取り組んでいきたいと思ひます。



栄養管理室 PRESENTS!

栄養満点!ヘルシーメニュー

春キャベツと桜エビの和風スパゲティー



【材料】(1人分)

- スパゲティー 100g
- 春キャベツ 100g
- 桜エビ 大さじ1
- ニンニク 1/3かけ
- 昆布茶 小さじ1
- 鷹の爪 1/3本
- オリーブ油 大さじ1

【作り方】

- ①春キャベツはざく切りに、ニンニクは薄くスライスにする。
鷹の爪は種を取り除き小口切りにする。
塩を入れた湯でスパゲティーを茹でておく。
- ②フライパンにオリーブ油を熱し、弱火でニンニクと鷹の爪を香りが出るまで炒める。
中火にして春キャベツと桜エビを炒め、お玉1杯のスパゲティーのゆで汁と昆布茶を入れる。
- ③茹でたスパゲティーを②に入れて味をなじませたら出来上がり♪

1人前
エネルギー:450Kcal
たんぱく質:16.3g
塩分:1.6g

これから美味しい春キャベツを
和風仕立てのスパゲティーにして♪

キャベツって こんなヤツ!

キャベツは野菜の中でもビタミンCが豊富です。さらにキャベツ独自の有効成分であるビタミンU(キャベジン)を有しており、このキャベジンには、胃腸の粘膜の新陳代謝を活性化し、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の回復をサポートする効果があります。また胃腸の粘膜修復に必要なたんぱく質の合成を促進し機能回復効果があります。

また近年ではキャベツには発がん物質の活性化を抑制する「ペルオキシダーゼ」やがん抑制物質の「アリルイソチオシアネート」「インドール」が含有されていることも分かっています。



臨床研究 推進室便り



最近、治験に協力して頂いている患者様から『テレビで治験に関する番組を見たよ』などの声をよく聞きます。以前よりも「治験」という言葉が身近になっているようで、私たち治験コーディネーターも嬉しく思っています。

厳しい寒さも少しずつ緩み、春の訪れはもうすぐそこまで近づいています。私たち臨床研究推進室でもこの春から新しい治験を数多く予定しています。新年度に入りましてよりよい治験の進行と患者様の満足度を保てるよう、スタッフ一同努力する次第です。

さて、今回は「治験の安全性」について一言。

年配の患者様の中には『治験＝人体実験』という悪いイメージをお持ちの方もいらっしゃる。非常に残念なことですが、過去一部の医学研究の歴史ではそのような事実もあったようです。

しかし、現在では患者様の安全性や人権を最大限守りながら治験が進められます。そのためにも、*GCPと呼ばれる国が作った治験のルールがあり、このGCPに沿った治験を私たちも実施しています。具体的な話では、治験を始める前や参加中に様々な検査を行い、健康状態を確認します。また、治験で使用する薬の効果や副作用を事前にお伝えし、理解を深めてから治験に参加して頂きます。

詳しいお話は治験を始める前に説明しています。

ご安心して治験に参加して頂ければと考えています。

*GCP:医薬品の臨床試験の実施の基準

ちけん君は(社)日本医師会 治験促進
センターのキャラクターです。



臨床研究推進室(治験管理室)
TEL:086-294-9519(平日のみ)
その他、当院実施中の治験参加に関する
問い合わせも受付しています

看護助産学校 通信 Vol.12

両親学級を終えて

助産学科2年 門脇 由季



私達助産学生はH24年9月初旬から3ヵ月間、岡山医療センター産婦人科病棟が主催する両親学級(計4回開催・14組の御夫婦が参加)で実習を行いました。参加された御夫婦は妊娠後期でお産が間近な方々でした。そのため、妊娠経過の説明、お産の流れ、新生児モデル人形を用いた育児技術の体験といった内容を取り入れ、各グループで創意工夫しながら、練習を積み重ね、学級に臨みました。



実際の開催では、参加された妊婦さんの妊娠週数相当の胎児模型を実際に触れていただき、お腹の中の赤ちゃんをイメージできるようにしました。また、ご主人様に10kgの妊婦体験モデルを着用していただき、妊娠による日常生活の困難さを体験していただきました。さらに、当院のお産のDVDを観賞してもらい、お産に対するイメージなどをもてるように意識しました。



特に、私たちのグループでは、胎児への愛着を深めていただくためにお腹の中にいる赤ちゃんへ胎児ネーム(例えば「ベビちゃん」などの愛称)をつけて会話をさせていただいたり、アロマポットをたき部屋の明かりを暗くし、リラックスした雰囲気の中で胎教用の絵本を朗読しました。開催後、御夫婦の方々から「二人で一緒に出産・子育てしていくのだと実感がわきました。」「赤ちゃんに“ママやパパだけではなくて、あなたの誕生を応援してくれる人がたくさんいるよ”って伝えてあげたくなりました。」といった感想があり、出産・育児・胎児への気持ちを家族で深めるきっかけ作りができたのではないかと感じました。

近年問題になっている育児不安を軽減するためにも、妊娠期からの胎教は親子の絆形成、愛着形成において重要な意味をもっています。今回の両親学級を通して、家族で安心・安全に妊娠・出産・育児を迎えるための支援を行う助産師を志す学生として、今後さらに知識・技術を高めていきたいと思います。



今回の両親学級を通して、家族で安心・安全に妊娠・出産・育児を迎えるための支援を行う助産師を志す学生として、今後さらに知識・技術を高めていきたいと思います。

リソース ナース室 通信 Vol.14

皆さん。
こんなことをやってほしい!
というリクエストを
お待ちしております!

こんにちは、リソースナース室です。

リソースナース室は今年、発足して約5年になります。この5年間でリソースナース室のメンバーも増え、現在では専門看護師1名、認定看護師11名になりました。また、認定看護師の分野も8分野となり、年々新しい分野の認定看護師が誕生しています。



メンバーは各個人の活動に加え、毎月「リソースナース室会議」を開催しています。会議の中では、分野は違いますがメンバーそれぞれが経験した事例や活動についての意見交換を行うことで、リソースナースとしてスキルアップできるように励んでいます。

皆さん、メンバーに気軽に声をかけて頂き、リソースナース室を活用してみてください。お待ちしております。

専門看護師 ●急性・重症患者看護:中山 智代美

認定看護師 ●集中ケア:中原 孝子、福光 明美、中山 智代美 ●感染管理:津田 ひとみ、原 清美 ●緩和ケア:大口 浩美

●新生児集中ケア:守 純子、石野 陽子 ●皮膚・排泄ケア:小田上 真弓 ●脳卒中リハビリテーション看護:鳥越 俊宏

●がん化学療法看護:川口 小巻 ●小児救急看護:松尾 智美



地域医療
研修室

医療者のための
セミナー・講演会 (3・4月)

会場: 当院西棟8階大研修室
時間: 19:30~20:30

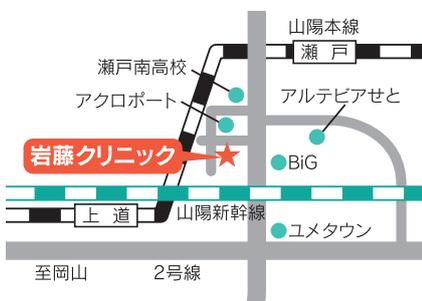
日 程	種 別	演 者
平成25年 3月19日(火)	第9回 地域医療研修セミナー 前立腺肥大症と過活動膀胱の診断と治療 ～内科的管理のポイント～	泌尿器科医師 藤田 竜二
平成25年 4月9日(火)	第41回 薬剤師研修会 当院における 治験コーディネーター業務 当院における腎移植後患者への 新たな薬剤師の取り組み	治験管理室 治験主任 野村 竜也 薬剤科 薬剤師 藤原 喜子
平成25年 4月16日(火)	第10回 地域医療研修セミナー ミャンマーでの国際医療協力と 旅行医学	乳腺・甲状腺外科医長 臼井 由行

～地域医療連携室～ 連携診療施設紹介

岩藤胃腸科外科歯科クリニック

院長 岩藤 知義

当院は、岡山市東区瀬戸町において平成元年に開業した有床診療所（19床）です。外科、内科、歯科の各常勤医師と非常勤医師により、消化器疾患と人工透析（CAPDを含む）及び歯科を専門に診療しています。胃・大腸・肝臓癌の早期発見のため、胃・大腸の内視鏡検査とCT、MRI、超音波検査に力を入れています。更に癌予防のためニコチン依存症に対して禁煙外来を設けています。また昼間の救急受入れや中心静脈栄養、経管栄養、人工肛門、人工呼吸器管理など亜急性期や慢性期の疾患にも対応しており、急性期病院の負担軽減と後方支援に努めています。そして慢性期の運動器不安定症に対しては、理学療法士による機能訓練を行い在宅復帰を目指しています。在宅医療では在宅療養支援診療所として往診、訪問診療を行い多職種連携の地域包括ケアを実践しています。グループの施設としては、介護老人保健施設「アルテピアセと」、デイサービスセンター「さくら」、ケアハウス「あかいわ」、グループホーム「アルテピア」と「あかいわ」の5施設があります。最近では、緩和ケアや在宅の看取りに取り組んでおり、病院と在宅を結ぶ架け橋としての有床診療所の在り方を模索しています。現在は、在宅療養支援診療所、救急告示医療機関、肝炎一次専門医療機関、胃大腸精密検査施設の指定を受けており、地域連携パス（大腿骨頸部骨折、脳卒中、がん診療）を通じて病診連携、診診連携を図っています。



住 所: 岡山市東区瀬戸町沖343
電 話: 086-952-1166
診療科目: 胃腸科・肛門科・外科・内科・呼吸器科・循環器科・整形外科
リハビリテーション科・リウマチ科・歯科
休 診 日: 日曜、祝日(水曜 歯科のみ)

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	—
15:00~19:00	○	○	○	○	○	○	—

※往診あり

編集後記

2013年(平成25年)になり、日本では総理大臣が変わり、新しい政権への期待感で、わが国の景気も上向いて来ている。しかし、海外ではアルジェリアの人質テロ事件、北朝鮮のミサイル打ち上げや核実験など平和を脅かす事件が頻発している。今年はこれからどうなるのか?しかし、ローマの歴史家クルチウス・ルーフスの言葉『歴史は繰り返す』というように、同じようなことが繰り返され、右に左に揺れているだけである。良い方向に時流が流れて欲しいものである。そして、われわれ現役世代は時流に逆らうのではなく、また、傍で眺めるのではなく、何とか時流に乗るようにしたいものである。(臼井)